

情報科教育法B		教授 樽井 勇之	
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200308

1. 授業のねらい・概要

高等学校の情報科教育免許状を取得することを希望する学生に対して授業を行う。

情報モラル・情報倫理について考察し、メディアリテラシー、情報通信ネットワークとコミュニケーションの指導法、情報科の教員として「総合的な学習の時間」との協調、情報教育に必要な知識・技術や指導方法を学ぶ。

2. 授業の進め方

講義形式を中心とするが、学生による調査・研究の報告（レポート）、模擬授業なども取り入れながら進めていく。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. コラボレーションとプレゼンテーション
2. 情報モラルの指導法	10. 評価の工夫
3. 情報倫理の指導法	11. 学習指導案の作成
4. メディアリテラシーの指導法	12. 情報科とプレゼンテーション
5. 情報通信ネットワークの指導法	13. 授業形式の実習
6. コミュニケーションの指導法	14. 情報教育に必要な知識
7. 情報システムと社会の指導法	15. まとめ
8. 「総合的な学習の時間」との協調	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備学修として、講義前に教科書を読み要点をまとめておく。事後学習として出題された課題を完成する。なお、これらの学修には、2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、個別に指導する。個別の進捗状況、理解度に応じてさらに課題を出題することもある。

6. 授業における学修の到達目標

- ・教科「情報」の学習評価の考え方を理解している。
- ・教科「情報」の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に応用できる。
- ・教科「情報」における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組める。
- ・指導要領をもとに具体的な授業形態や学習指導案を作成できる。
- ・模擬授業の実践と振り返りをもとに、授業改善の視点を身に付けている。
- ・情報教育を指導する教員としてふさわしい資質・能力を身に付けている。

7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物（60%）、定期試験の結果（40%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：久野靖・辰巳丈夫、『情報化教育法（改訂3版）』、オーム社

9. 受講上の留意事項

情報分野は技術の進歩が速いので常に勉強を継続し、新たな知識や技術の修得に努めること。